

センターからのお知らせ

世界エイズデー in Yokohama 2020 の報告

12月1日・世界エイズデー in Yokohama 2020の活動のために、「知ってる?エイズのこ。」と題し、啓発ポスターを作成しました。

当センターのマスコット・コムちゃんの大きな笑顔から、日常生活では感染しないこと、感染のほとんどが性的接触であること、HIV検査が匿名・無料であることを伝えました。

エイズは身近な問題であり、今後も最新の情報を発信していく必要があるとの声をいただきました。



提供:横浜市神奈川区福祉保健課

★ 「ピンクシャツデー2021 in 神奈川」について

2007年カナダ・バンクーバーの学生2人の実話から始まったピンクシャツデー。ある日、ピンクのシャツを着た男子生徒がからかわれ、いじめにあいました。2人の上級生たちは、「明日、学校で一緒にピンクのシャツを着よう」と呼びかけました。翌日学校中がピンク色に染まり、いじめが自然となくなったそうです。この話はSNS等で世界180か国以上に広まりました。2021年は2月24日(水)がピンクシャツデーです。

ピンクのシャツや小物を身につけ、「いじめストップ」の意思表示を!!
詳しくはこちら→[ピンクシャツデー2021 神奈川推進委員会・認定 NPO 法人 神奈川子ども未来ファンド](https://kodomofund.com/pinkshirtday/)

<https://kodomofund.com/pinkshirtday/>



★ 2021 年度青少年向け啓発事業の募集について

横浜 AIDS 市民活動センターが行う 2021 年度青少年向け啓発事業の募集受付は、2021 年 4 月初旬より予定しています。(募集要項は 3 月下旬にセンターHPに掲載予定。横浜市立の小・中・高校には要綱を送付します。)

【青少年向け啓発事業とは】

横浜市内の学校及び団体の青少年(小学校高学年・中学生・高校生)を対象に、エイズについての正しい知識の普及及び患者・感染者への理解を図るために、センターが委託した NPO/NGO 等から講師を派遣し、エイズに関する講演会やワークショップを無料で実施します。

お問い合わせ:横浜 AIDS 市民活動センター TEL 045-650-5421

HIV・エイズ、性感染症の正しい知識・最新情報をわかりやすく解説!

おーぷん

URL <https://yaaic.gr.jp/>



発行:横浜 AIDS 市民活動センター
公益財団法人横浜YMCAが横浜市から事業を受託しています。
〒231-0015 横浜市中区尾上町3丁目39番地
尾上町ビル9F / TEL:045-650-5421 FAX:
045-650-5422 / E-mail:info@yaaic.gr.jp
平日:13:00~20:00 / 土・祝:10:00~17:00
休館:日/火
監修:横浜市健康福祉局健康安全課

特集 身近なことから人権を考えてみよう!

性・エイズに関する学習会 2021

2週連続
オンライン
開催

性・エイズに関する学習会 2021 では、自分と他人のからだところを大切にすることを学び、より豊かな学校生活や社会生活につなげることで、若い人たちが力づけられ、安心して生きていけるよう考えていきます。
オンライン開催ですので、お申し込みの上、ご参加ください。

第1週 3/20(土・祝)
11:00~12:00

講座:「中高生の声から考える性教育と性の健康を守る医療の課題」

講師:遠見才希子さん(湘南藤沢徳洲会病院産婦人科非常勤・筑波大学大学院社会精神保健学)

著書:『ひとりじゃない 自分と心とからだを大切にするって?』発行:2011年 デイスクヴァー・トゥエンティワン

第2週 3/27(土)
11:00~12:00

講座:「子どもの気持ちを聴いてください」
~デートDVの現状とLINE相談から見えるコロナ禍の子どもたち~

講師:阿部真紀さん(認定 NPO 法人エンパワメントかながわ理事長)

著書:『暴力を受けていい人はひとりもいない』発行:2018年 高文研

参加対象:子どもや若者支援者、学生、テーマに関心のある方

定員:各50名(申込順)

開催会場:オンライン(ZOOM ウェビナー)

申込方法:2月17日(水)15:00から、当センターのHPで受付を開始します。

URL <https://yaaic.gr.jp/>

特集 身近なことから人権を考えてみよう!



「COVID-19 時代の人権」メッセージ
 UNAIDS (国連合同エイズ計画) が 2020 年 3 月 20 日に「Rights in the time of COVID-19(COVID-19 時代の人権)」という報告書を発表しました。
 新型コロナウイルス感染症拡大により世界中で健康と生活と生計に関心が向い、人権やジェンダー、社会の不平等が問題となっています。
 今こそ、お互いにやさしくなって生活をしませんか?

- 7つの大切なこと
- ① コミュニティを中心に
 - ② スティグマや差別をなくそう
 - ③ 弱い立場の人たちを支えよう
 - ④ 行動を妨げる障壁を取り除こう
 - ⑤ 刑事罰は無用です
 - ⑥ 今こそ国際協力を
 - ⑦ やさしくなろう

参照: エイズ予防情報ネット
 UNAIDS「COVID-19時代の人権」



センターのマスコット コムちゃん

人権とは
 『人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらに持っている権利』です。子どもも大人も、性別、国籍、その他の地位や意見の違いがあっても、一人ひとり大切な人間として、どんな人でも尊重される権利です。
 まずは、知って、関心を持ち続けていくことが、とても大切です。



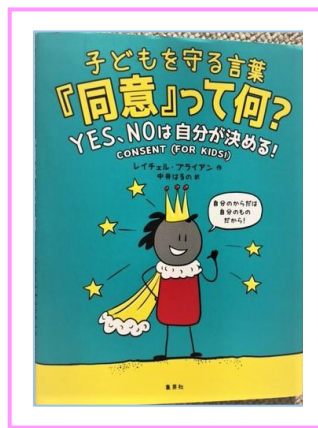
「体育・スポーツにおける多様な性のあり方ガイドライン」
 2020年9月に日本スポーツ協会は、選手、指導者、ひいてはすべてのスポーツ関係者が多様な性のあり方について考え、LGBTなどの性的指向・性自認(SOGI)について理解を深め、行動するための参考資料となることをめざして、ガイドラインを作成しました。
 詳しくはこちら→
<https://www.japan-sports.or.jp/medicine/tabid1242.html>

参照: 公益財団法人日本スポーツ協会

「横浜市パートナーシップ宣誓制度」
 2019年12月のスタートから1年が経ちました。横浜市におけるパートナーシップの定義は、「互いの人生をパートナーとし、共同生活において、対等な立場で、必要な費用を分担し、相互に責任を持って協力することを約した2人の関係」です。
 1年間で135組が宣誓を行いました。
 多くの市民が互いの多様性を認め合い共に生きる社会に必要な制度です。

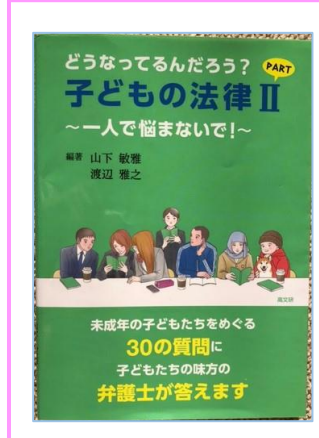


提供: 横浜市市民局人権課
 令和2年度人権啓発ポスター



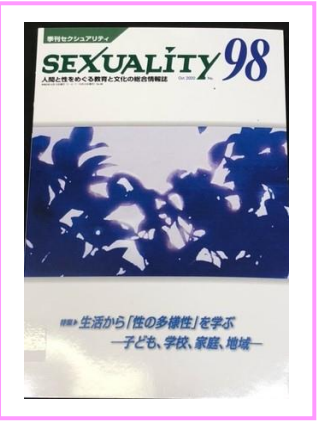
発行: 集英社

「子どもを守る言葉『同意』って何?」
 不愉快なこと、されたくないことには「イヤ・NO」っていう気持ちを言葉や行動で示しているんです。NOって言いづらい? 我慢することではありません。
 自分の周りにいる人たちと同意のやり取りの練習をすることは、大人も子どもも必要です。



発行: 高文研

「どうなってるんだろう?」
 子どもの法律 PART II
 学校・家庭・性・命・犯罪・お金について「どうなっているんだろう? どうしたらいいの?」という問題を分かりやすく解説し、弁護士に相談したい、話や意見を聞きたいときの役に立つ情報も詰まっています。あなたは一人だけど、独りぼっちではないことが分かります。



発行: エイデル研究所

「季刊セクシュアリティ98」
 特集は生活から「性の多様性」を学ぶ-子ども、学校、家庭、地域-です。
 豊富な資料やデータ、実践授業や海外の情報も紹介しています。
 バックナンバーについては、当センターにお問い合わせください。